

氏名	遠藤文香
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3466 号
学位授与の日付	平成19年9月30日
学位授与の要件	医歯学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Electroencephalographic changes before the onset of symptomatic West syndrome (症候性West症候群発症前の脳波の変容)
--------	--

論文審査委員	教授 黒田 重利 教授 阿部 康二 准教授 氏家 寛
--------	----------------------------

学位論文内容の要旨

West 症候群発症前のでんかん発射の出現時期や様式、その変容過程の特徴について、West 症候群発症前かつ乳児期早期から経時的に脳波検査が行われた 25 例を対象として検討した。初回でんかん発射出現部位は後頭部優位に出現する O 群 (14 例)、多焦点性に出現する M 群 (7 例)、後頭部以外の焦点性発射で始まる non-O 群 (4 例) に分けられた。O 群の 14 例中 12 例が早産児で、うち 11 例に脳室周囲白質軟化症を認めた。M 群は、周生期に虚血性低酸素性障害を有した比較的在胎週数の遅い症例が多かった。初回でんかん発射出現時期は M 群に比べ O 群が有意に遅く、O 群は修正 3 カ月以降、M 群は 3 カ月以前に出現した。周生期の脳障害の受傷様式の違いが、初回でんかん発射の出現様式に関係していると考えられた。また、修正 3 カ月は後頭葉の皮質過敏性が亢進している時期であり、でんかん発射出現を考える上で critical age と考えられた。乳児期早期からの経時的な脳波検査は West 症候群の発症を予測し、その病態を探求するのに非常に有用であった。

論文審査結果の要旨

West 症候群は乳幼児期から始まる予後不良のでんかんである。本研究は、結果的に West 症候群と診断された 25 例を臨床、脳波学的に前方視的に追跡研究したものである。後頭部優位に発作波が出現した群が 14 例と最も多く、そのうち 12 例は早産児で、脳室周囲白質軟化症を 11 例に見た。この 14 例は修正 3 ヶ月以降に初回のでんかん発作波をみた。多焦点性は 7 例で初回のでんかん発作波の出現は 3 ヶ月以前であった。このように脳障害の違いにより初回異常発作波の出現様式が異なっていた。これらは、出生前や周生期に障害を有する症例では出生から経時的に診察をするとともに脳波を追跡することにより、West 症候群を早期に発見することが可能であるという、重要な知見を得ており価値ある業績である。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。